

自然な裸眼3D表示に成功

URCF立体映像伝送作業班が

7日開幕の国際画像機器展で実演

【松山】URCF立体映像伝送作業班（NHKメディアアテクノロジー、東芝、エフエーシステムエンジニアリング）は、大型裸眼（メガネなし）3Dモニター（東芝試作品）で実写3D医療と実写エンターテインメントコンテンツのこれまでにない自然な裸眼3D表示に成功した。これらは「国際画像機器展2011」（7-9日／パシフィコ横浜）で展示実演される。

従来は実写3D医療コンテンツをブルーレイプレーヤーから3Dモニターに表示し、偏光メガネあるいはアクリルタイプメガネで視聴していたが、大型裸眼3Dでは3D映像をメガネなしのハイビジョン画質で、より自然に楽しむことができる。

今回の「国際画像機器展2011」では、大型裸眼3Dモニターに実写3D医療および実写エンターテインメントコンテンツを表示し、裸眼モニターならではの超臨場感が実感できる。また、裸眼テレビ対応ハイビジョン3D Surge Cam GLカメラから裸眼20インチ3Dテレビにライブ映像の実証実験も行う。

URCF立体映像伝送作業班リーダーのエフエーシステムエンジニアリング（松山市北藤原町）の中村康則社長は、「人に優しい3D」を裸眼3Dモニターで、実写映像を多くの方にご覧いただき、裸眼3Dコンテンツの制作技術・3D裸眼表示技術の実証実験を目的とした将来の裸眼3Dテレビ放送の可能性を探りたい」と話している。